

第1回 竜野川流域水害対策協議会 議事概要

日 時 令和7年7月2日（水）10時00分～11時15分

場 所 甲佐町役場 生涯学習センター・ホール

出席者 甲斐 高士（甲佐町長）

大本 照憲（熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 名誉教授）

田中 尚人（熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授）

岩永 知春（甲佐町上早川2区 区長）

後田 浩二（国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所 技術副所長）

工藤 康隆（熊本県土木部 河川課長）

松田 龍朋（熊本県県央広域本部 土木部長）

星出 和裕（熊本県県央広域本部上益城地域振興局 土木部長）

《概 要》

■ 竜野川特定都市河川指定の概要

- ・ 事務局より【資料1】の内容について説明。

■ 竜野川流域水害対策協議会の規約（案）について

- ・ 事務局より【資料2】の内容について説明。
- ・ 異議なしのため、本協議会の規約は、令和7年7月2日付け施行で承認。
- ・ 規約第3条第2項に基づき、熊本大学 大本名誉教授が座長に指名。

■ 竜野川流域水害対策計画の策定に向けて

- ・ 事務局より【資料3】の内容について説明。

<主な意見等>

- 竜野川流域には灌漑用水路が行き届いており、用水路が川の一部となっているため、治水と利水の両立を目指す必要がある。
- 竜野川へ合流する河川が多く、流域の水がすべて竜野川に集まってくるため、竜野川への負荷を低減・分散させる工夫ができると良い。
- 計画規模以上の降雨（超過洪水）時にはすべてを守ることは現実的に難しく、例えば、少なくとも市街地には土砂や流木は流れ込ませないなど、被害を最小化させるためにどのようなことができるか考えていかなければならない。
- 子々孫々住めるまちづくりを行うため、安全に暮らせる“まち”となるよう対策を考えてほしい。
- 流域治水で取り組む防災対策は地元の合意形成が重要になるが、地元だけの負担と捉えられないようにすべき。自分達の地域は自分達で守るという意識を醸成し次の世代にも繋いでいけるよう、例えば中・高校生への防災教育等も含めて取り組むと良い。
- 平成28年6月の洪水時は、宮ノ尾川に架かる橋梁に流木が集積し、氾濫した。地域には荒廃した山があり、土砂・流木災害への対策も考える必要がある。
- 河川の氾濫を防ぐために、雨水はできるだけ地下に浸透させなければならないという意識をみんなが高めて取り組んでいく必要がある。

以上